

# 学校司書だより



札幌市立新陵中学校

学校司書

林 真知子

第4号 2020. 9. 9

短い夏休みが終わり、2学期が始まりました。今年の夏は本当に暑く、9月に入ってもまだまだ残暑が続いていますね。これからは落ち着いて勉学に励む時であり、そして、読書に親しむ時でもあります。ぜひ、図書館の方にも足を運んでみてください。

## ～絵本の世界～（ホッとしてみませんか）

図書館にはたくさんのお絵本を用意しています。小さい頃読んだ絵本も大きくなってから読み返すとまた、新しい感動が得られますよ。今回はいくつか紹介します。

### ○佐野洋子『100万回生きたねこ』（講談社）

一匹の猫がさまざまな飼い主のもとで100万回生まれ変わっては死んでいく。虚栄心のみで生きていた猫が恋をして家族を持ち、大切な人を亡くすことで初めて愛を知り、悲しみを知る。

100万回生きたねこ



### ○シェル・シルヴァスタイン『おおきな木』（あすなる書房）

りんごの木と人間との交流を描く。少年から年老いた男に成長するまで木は人間の願いごとを全てかなえてあげる。最後は切株になるまで。

### ○くさばよしみ『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』（汐文社）

南米の小国ウルグアイの大統領を務めた大統領ホセ・ムヒカ。彼は収入の大半を寄付。公邸に住むことを拒み、小さな農場で質素な暮らしを続ける。ブラジルで開かれた国連持続可能な開発会議での名スピーチ。彼の言葉は、世界中の人々に影響を与える。

### ○ジャン・ジオノ『木を植えた男』（あすなる書房）

南フランスのプロヴァンスの荒地に一日に100個のどんぐりを植える男がいた。無事に育つのが、その10分の1。苗が全滅したり、二度の大きな戦争があったりしても物ともせず、30年以上、ひたすらに自分の仕事に打ち込む。彼がもたらしたものは？

### ○サン・テグジュペリ 絵本『星の王子さま』（集英社）

一度はみなさん、このお話を読んだことがあるのではないのでしょうか。その新訳で絵本になったもの。見る者の心にすっと入ってくる優しい挿絵も原作より大きく描かれていて、親しみやすい。

### ○竹下文子『なまえのないねこ』（小峰出版）

名前をつけてもらえない野良ねこが、最後に自分が本当に欲しかったものに気付く。

**お願い** 本を借りて返していない人がたくさんいます。借りるのを待っている人がいます。早く返してください。

## ～古典の息吹を感じてみましょう～

今年のお月見（十五夜）は10月1日です。私は時々、晴れた日の夜、窓から月を見ることがあります。特に、満月の日の月は美しいですね。そして、月を見て思い出すお話は『竹取物語』です。みなさん、古典のお話は好きですか。図書館に置いてある現代語訳『日本の古典』1～21（学習研究社）は絵も豊富で、読みやすいです。『竹取物語』『枕草子』『徒然草』『奥の細道』などが収められています。

### 『竹取物語』

小さい頃、「かぐやひめ」のお話として読み、学校でも授業で勉強したことがあると思います。現在残っている日本の物語の中では、最も古いものといわれています。図書館にも同じ物語の本があります。詳しいお話が載っていますので、もう一度読んでみませんか。

特に、かぐや姫に求婚する5人の貴公子に与えたそれぞれの難題に全員が失敗する段があります。さんざんな目にあう章段の最後には〈落ち〉がつけられていて、笑いをさそいます。



### 『枕草子』

「春はあけぼの。……」で始まり、「冬はつとめて。……」で終わる清少納言が書いた平安女流文学の傑作です。春夏秋冬、それぞれの季節の中で、作者が「をかし（おもむきがある）」と感じた言葉が多く用いられています。

\*他に、『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』『古事記』『万葉集』『小倉百人一首』

### 今月の詩

影と海

谷川 俊太郎

私いだれかを傷つけるとき  
苦しむのはこの私  
あなたがだれかを苦しめるとき  
傷つくのはそのあなた  
苦しみも傷もついてくる  
影のようにどこまでも

私いだれかを喜ばすとき  
幸せなのはこの私  
あなたがだれかを幸せにするとき  
喜ぶのはそのあなた  
幸せと喜びは歌っている  
海のようにいつまでも

（『15歳の詩』②「いきる」より）

